

---

# 当社の事業概況と経営方針について

2007年7月20日

水晶デバイスで世界をつなぐ

**RIVER**

リバーエレクトック株式会社

( JASDAQ 6666 )

## 会社概要 (2007年3月末現在)

- 社 名 : リバーエレクトック株式会社
- 所 在 地 : 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1 - 11
- 設 立 : 1951年3月9日
- 事 業 内 容 : 電子部品の製造販売
- 資 本 金 : 1,070百万円
- 単 元 株 式 数 : 100株(2006年9月から1,000株 100株)
- 売 上 高 : 9,248百万円 / 8,403百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 経 常 利 益 : 890百万円 / 771百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 社 員 : 849人 / 121人 (連 / 単、臨時・派遣を含む)
- グループ会社 : 青森リバーテクノ株式会社  
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.  
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.  
台湾利巴股份有限公司

- ・抵抗器の「富士産業」から、水晶デバイスの「リバーエレクトック」へ
- ・「どこよりも小さく、どこまでも小さく」という軽薄短小への挑戦

- 1951年 3月 富士産業株式会社を東京都新宿区に資本金50万円で設立、抵抗器の製造及び販売を開始
- 1968年 1月 山梨県韮崎市に本社を移転、旧本社を東京営業所とする
- 1977年 7月 当社初となる水晶振動子を量産化
- 1989年 3月 SMDタイプ水晶振動子「FCX - 01」を開発(業界最小)
- 1991年 10月 商号を「リバーエレクトック株式会社」に変更
- 1993年 2月 樹脂封止技術を用いたSMDタイプ水晶振動子「FCX - 03」を開発(業界最小)
- 1997年 10月 電子部品業界で初めて実用化した電子ビーム封止工法によるSMDタイプ水晶振動子「FCX - 04」を開発(業界最小)
- 2004年 8月 JASDAQ市場に株式上場(証券コード:6666)

# リバーネットワーク(営業所及び子会社)



車力工場



金木工場



青森リバーテクノ株式会社  
(本社)

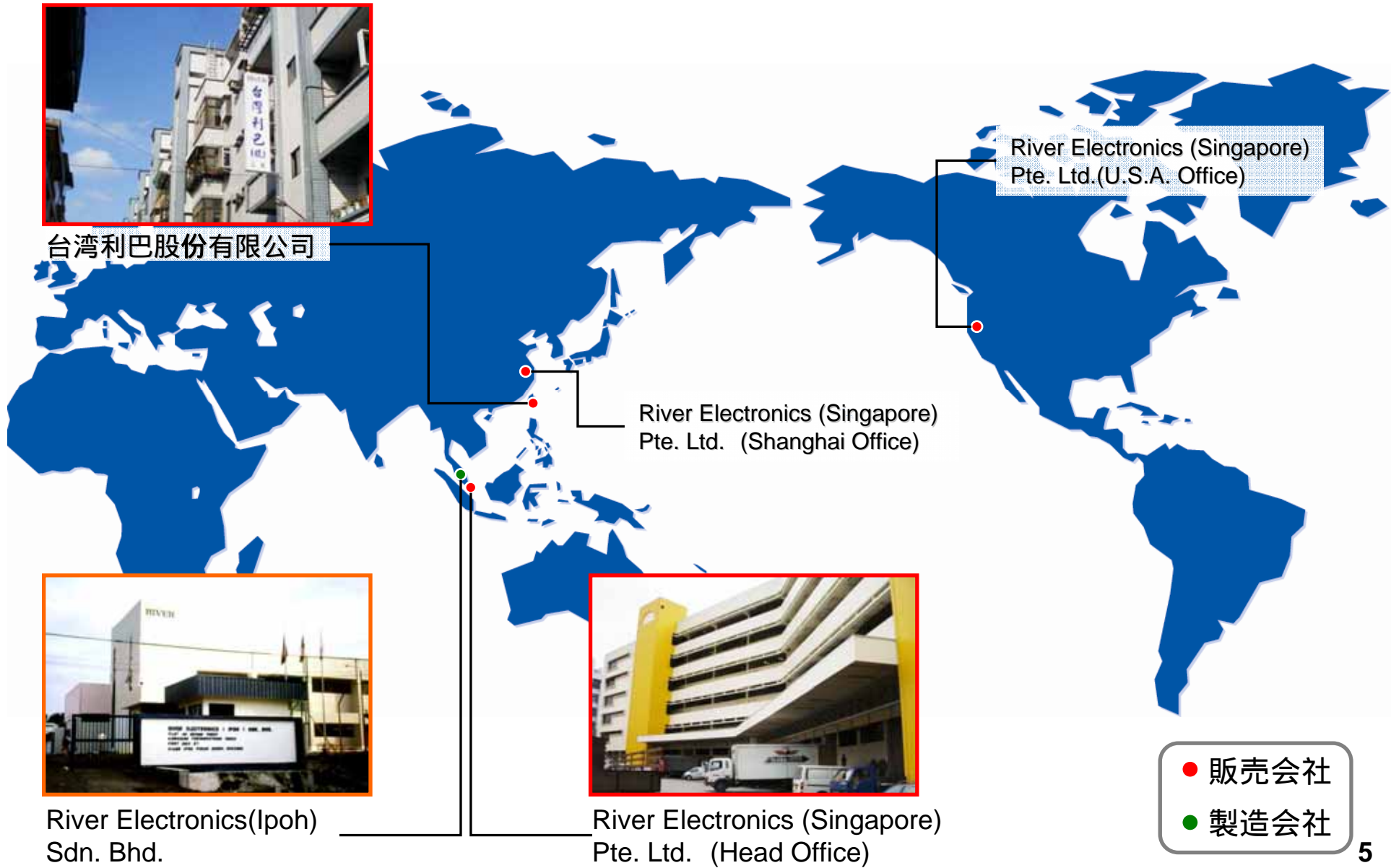


平賀工場

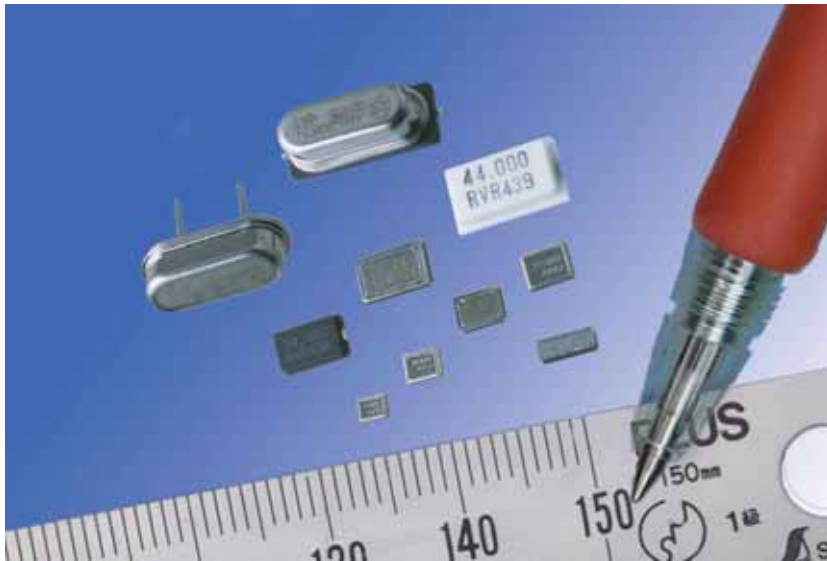


リバーエレテック本社

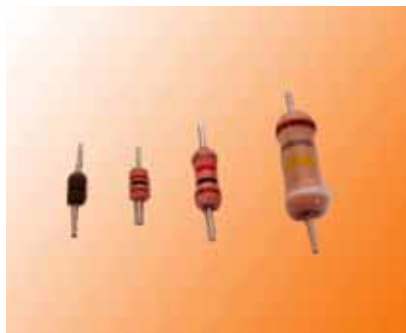
# リバーネットワーク(営業所及び子会社)



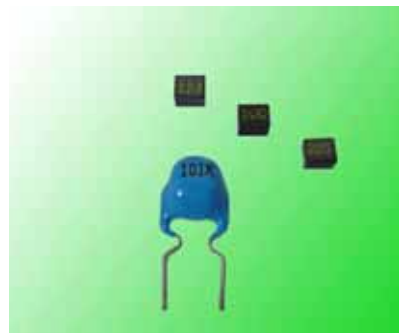
## 電子部品の製造及び販売に関する事業を展開



水晶製品

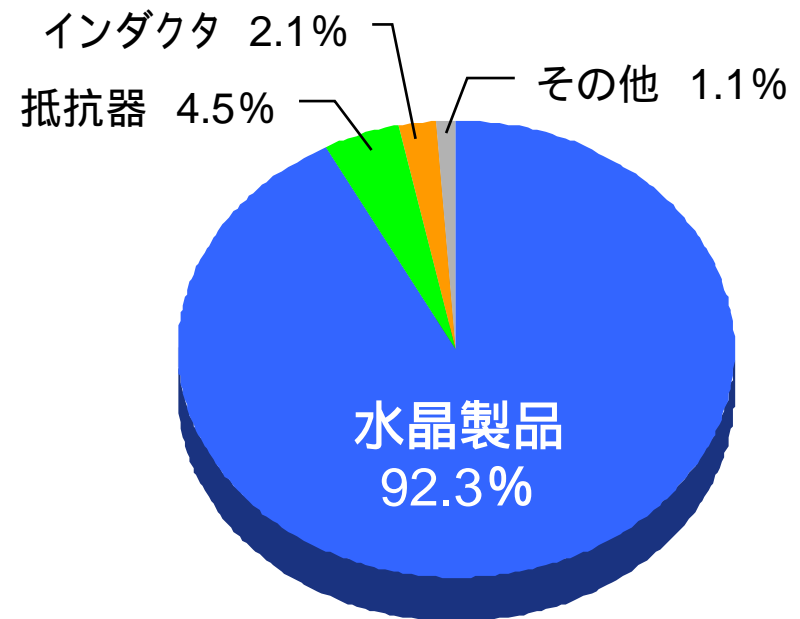


抵抗器



インダクタ

2007年3月期  
連結セグメント別売上高の割合



# 水晶デバイスの役割

## 安定した周波数の維持

携帯電話やテレビ等は、声や画像といった情報を、決められた電波により、送信または受信している。ここに水晶の安定した基準信号が使われる

無線LAN



携帯電話



テレビ



その他無線通信機能をもった様々な機器に使用されている



# 水晶デバイスの役割

## 規則正しい基準信号

コンピュータのCPU(中央処理装置)の周辺にある様々な回路を、タイミング良く動かすために、正確な基準信号(クロック周波数)を作り出す指揮者のような役割を水晶が行っている



CPUとその周辺回路



クロック周波数  
(正確な基準信号)



水晶振動子



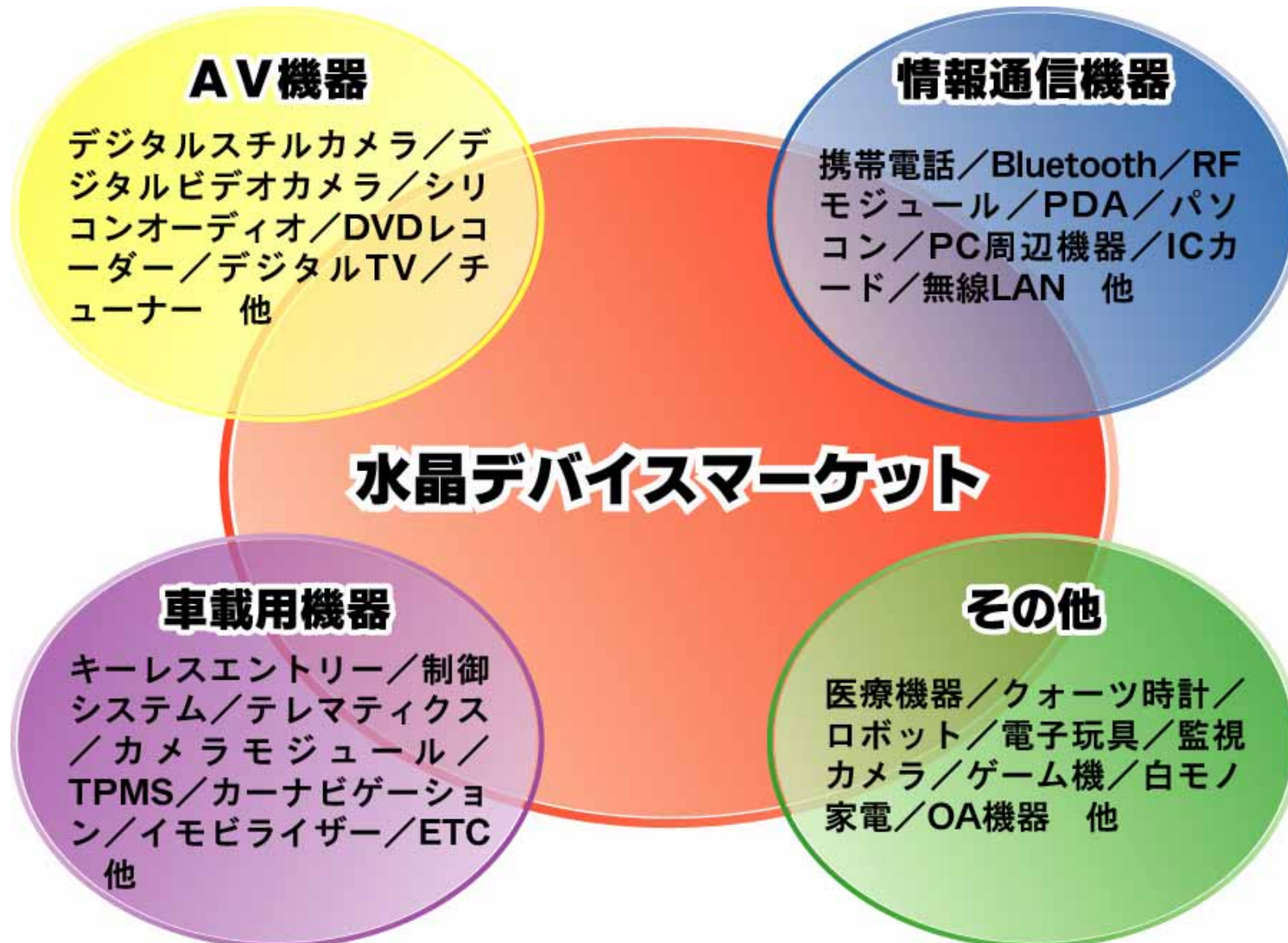


リバーエレクトックは水晶振動子と水晶発振器に製品を絞り込んでいる

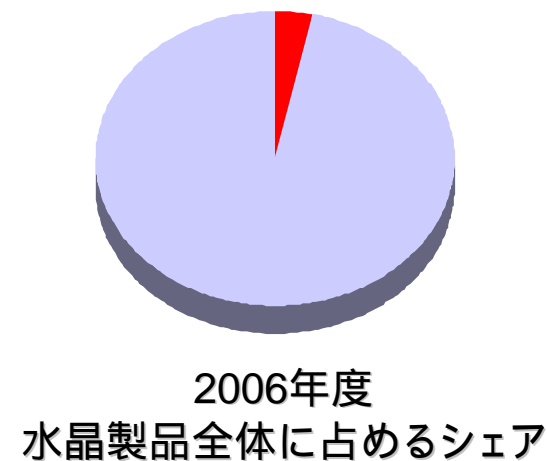
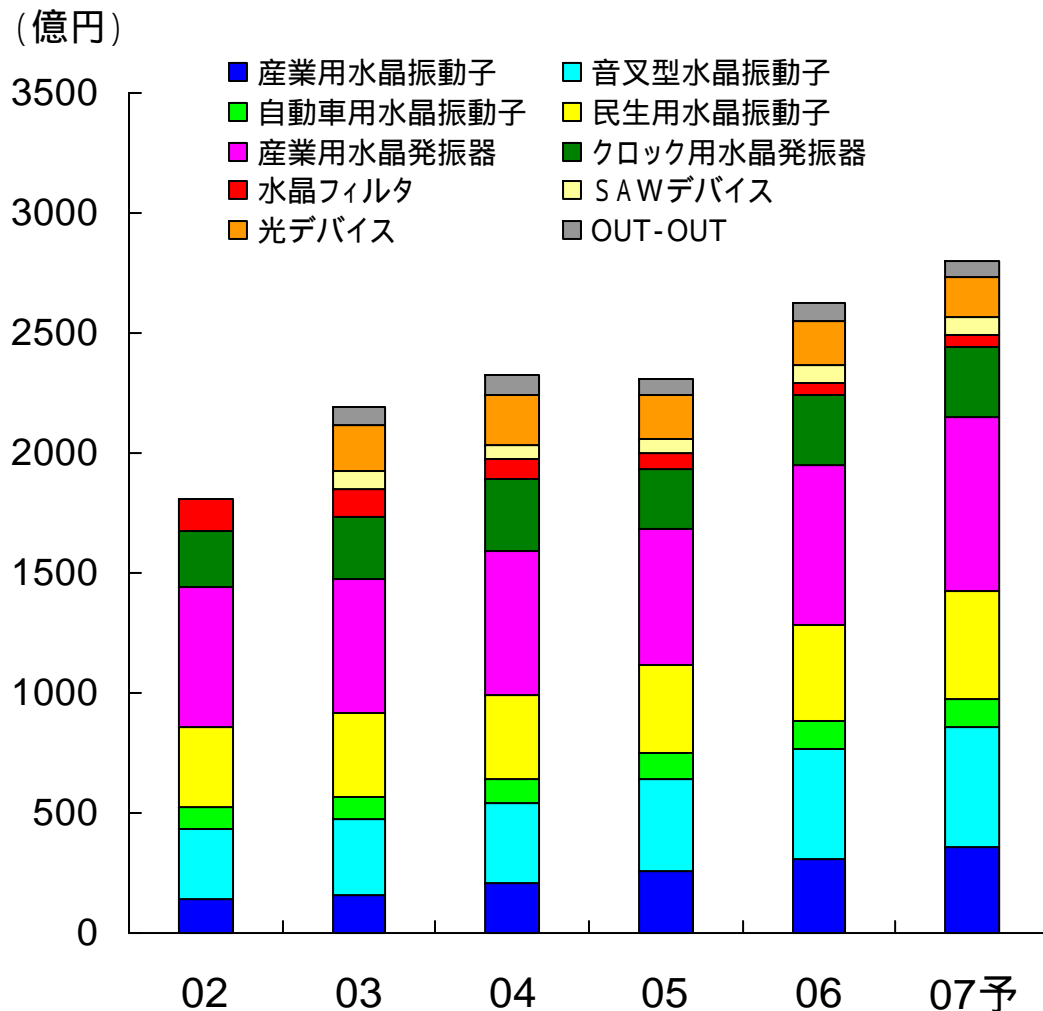


■ は当社グループで製造・販売をしている水晶デバイス

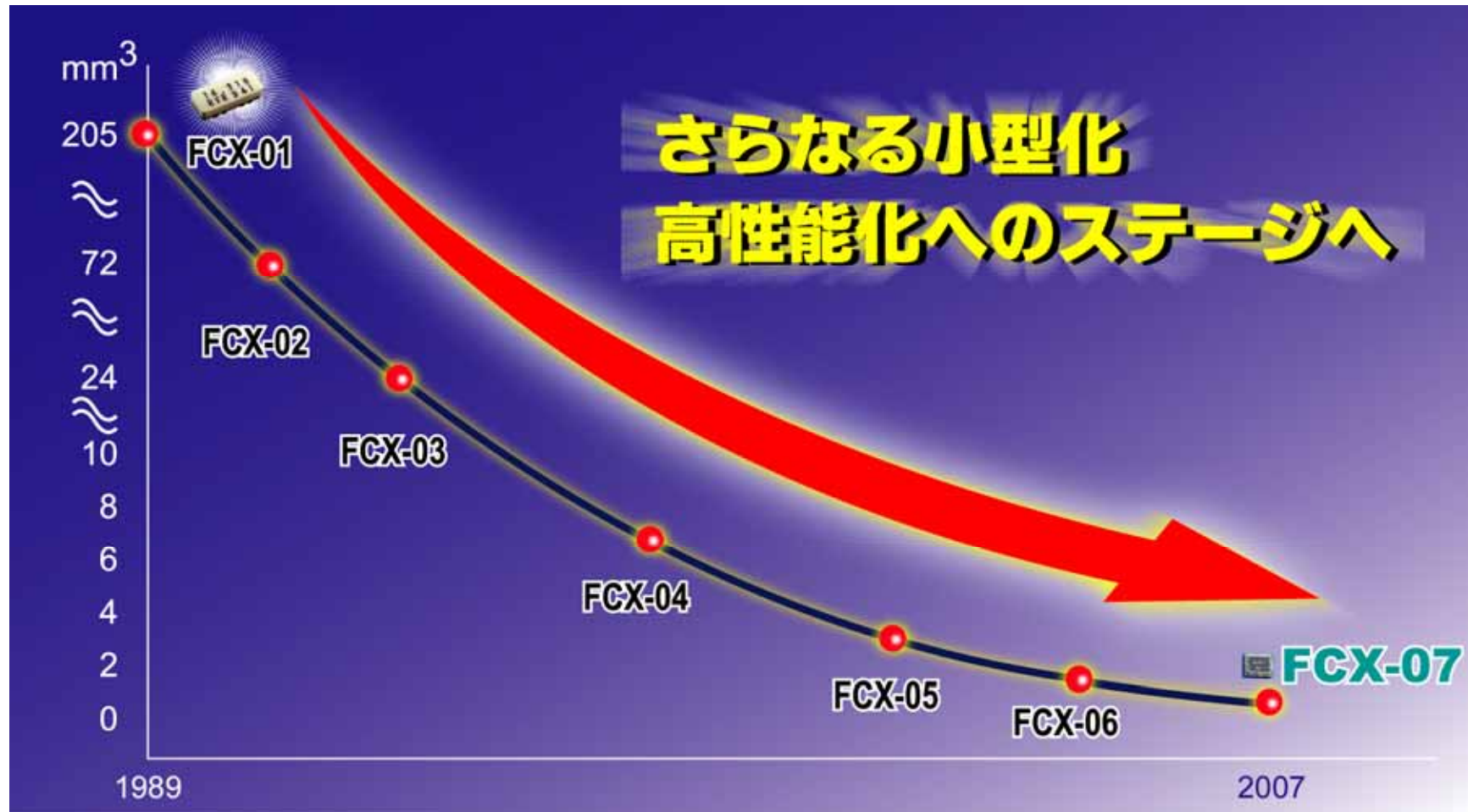
SMD : Surface Mount Device



## 水晶製品の品種別生産金額実績

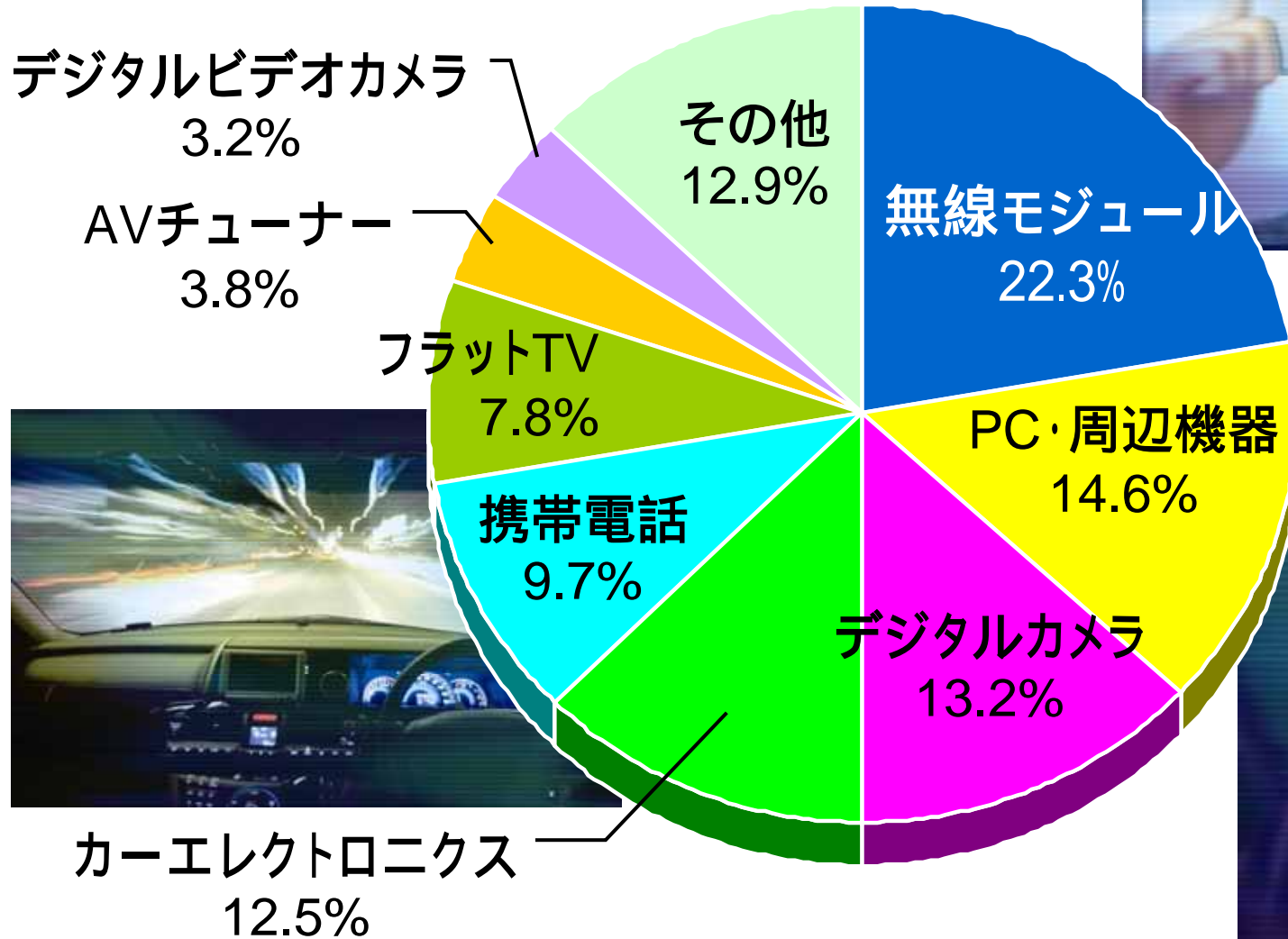


小型化市場に絞り込んだ事業を展開  
常に業界を先駆けた小型製品を市場に投入している



# どのような製品に使われているのか

2007年3月期  
水晶製品売上高構成比





## 医療機器

- ◆小型化の要求
- ◆撮像・通信技術の進展



カプセル型内視鏡のような  
小型医療機器での使用が増加



小型かつ高信頼性が必要



2007年4月に厚生労働省が輸入販売を認可。(イスラエルのギブン・イメージング社)

カプセル型  
内視鏡



飲み込む



体内を撮影

## セットメーカー

サムスングループ  
ソニーグループ  
シャープグループ  
キヤノングループ  
松下グループ  
パイオニアグループなど

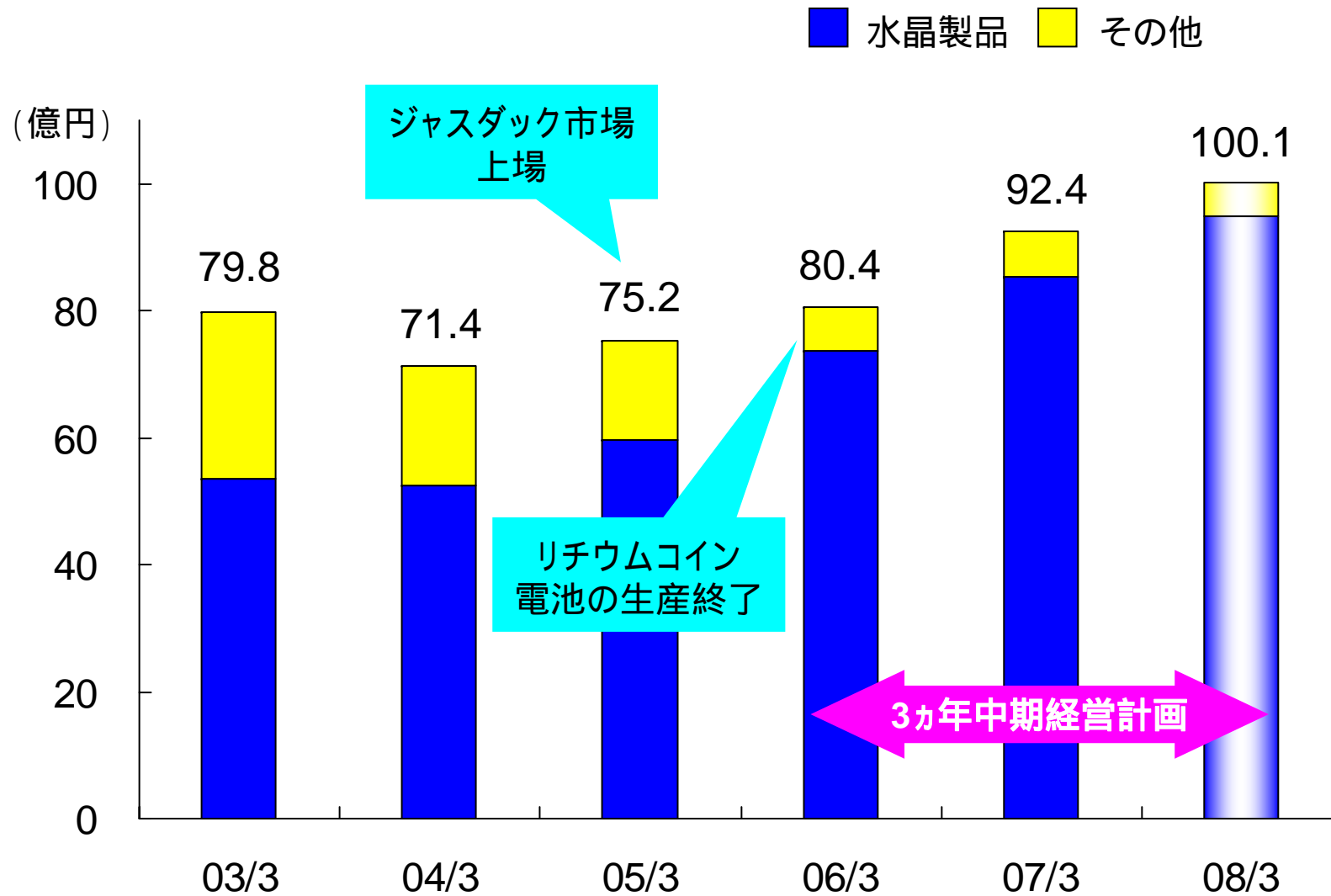
## モジュールメーカー 自動車部品メーカー

アルプス電気  
ミツミ電機グループ  
村田製作所グループ  
オムロングループ  
カルソニックカンセイなど

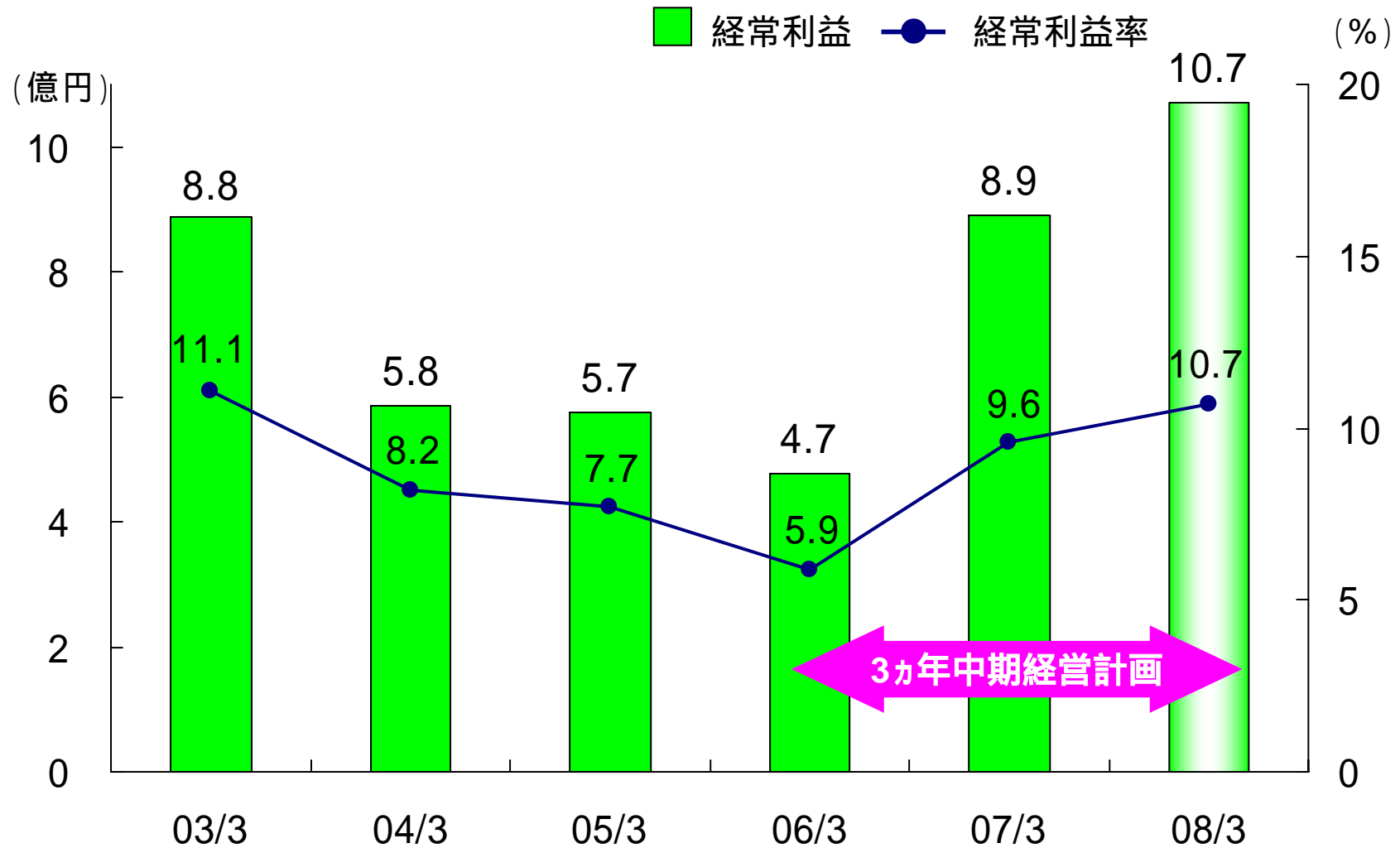


# 業績の推移

## 連結売上高(過去5年、当期計画)



## 連結経常利益、経常利益率(過去5年、当期計画)



3か年中期経営計画(2006.3～2008.3)の最終年度

## 高付加価値企業の実現

源流・創価・革新の追及

売上高経常利益率:10%以上

ROE:7%以上

顧客の満足と  
信頼の獲得

顧客の視点に立った  
企業活動を推進し、  
顧客の満足と信頼を獲得する

独創的発想による  
価値の創造

独創的発想により  
差異化を追及し、  
新しい価値を創造する

事業改革による  
持続的な成長

事業構造の改革により  
収益性を強化すると共に  
効果的に経営資源を投入し、  
持続可能な成長を図る

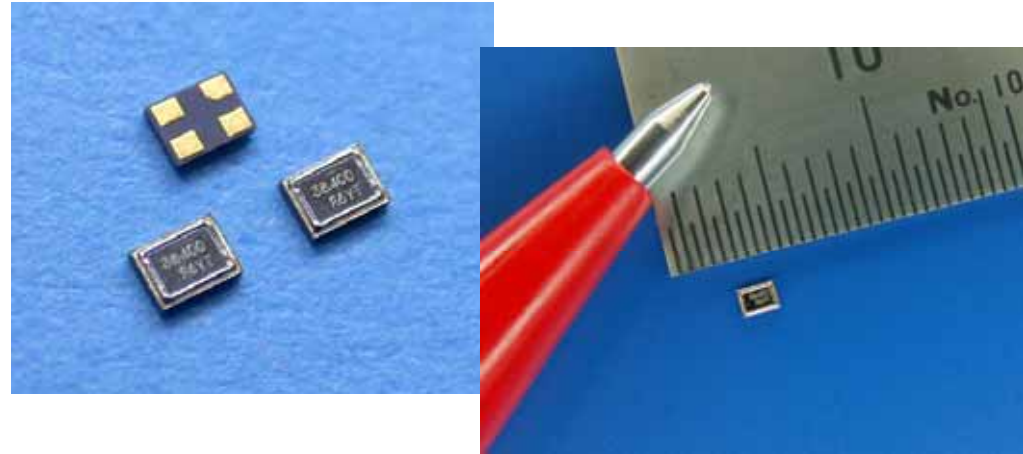
## 独自技術力を生かした超小型水晶製品の開発

超小型水晶振動子

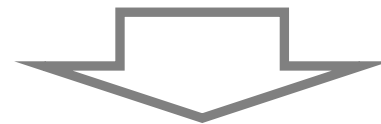
**FCX-07**

2007.1.29プレスリリース

**サイズ: 1.6 × 1.2 × 0.4mm**  
(業界最小サイズ)



電子ビーム封止工法等の独自技術を生かし、  
超小型分野へ先行開発・先行投入

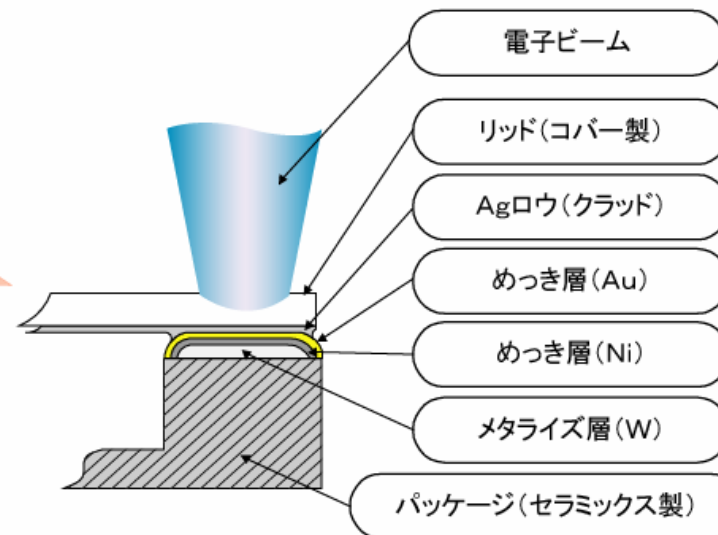
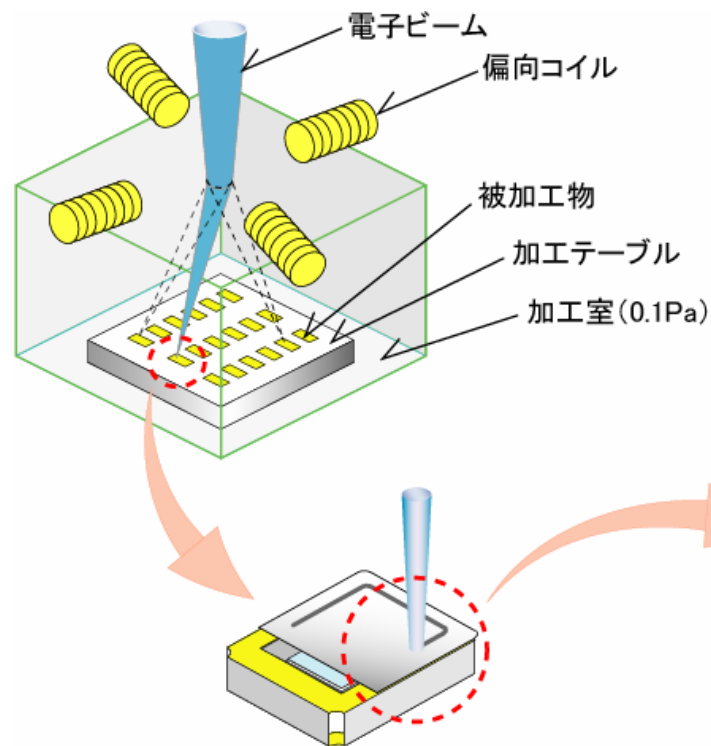


優位性を生かした成長 & 収益力向上

# 電子ビーム封止工法

これは被加工物を真空中に置き、電子ビームの高速スキャンにより封止部分の金属を融解させ、ろう付けすることで封止するものである。電子ビームが微細であり、ろう材の溶け幅を高い精度で制御できるため、従来からある一般的な封止工法よりも封止部分の幅を小さくでき、製品の小型化が可能となっている。

また、局所加熱による水晶片への熱ダメージの抑制、真空封止による信頼性等優れた点が多く、低コスト化も実現している。



# 中期経営計画実現に向けて 成長分野へFocus & Deep

## 携帯電話

薄型・軽量への対応



## カーエレクトロニクス

キーレス、カーナビ  
に続く成長ドライバー  
の獲得



## 無線モジュール

+ (チューナーモジュール)  
ワンセグ、サンセグ向  
けへの取組み強化



## 中期経営計画実現に向けて

### 音叉型水晶振動子市場への拡販

音叉型水晶振動子は、主に時計機能を  
を持った電子機器に搭載される



携帯電話等の小型機器に対する  
小型・薄型の要求が強い



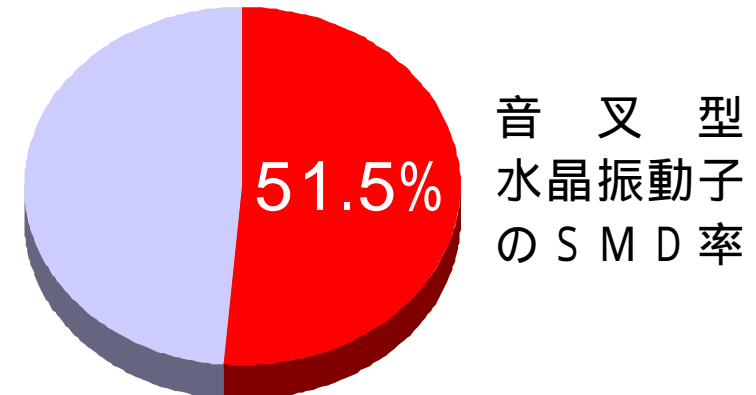
小型SMD(表面実装)  
タイプで市場を獲得



音叉型水晶振動子TFX-02

#### 低いSMD率

音叉を除く水晶製品の2006年度のSMD率88.3%と比較して音叉のSMD率はかなり低い



音叉型  
水晶振動子  
のSMD率



# 中期経営計画実現に向けて

## グローバルなビジネス網の構築

海外でも小型の要求が高まっている

**マッチング**

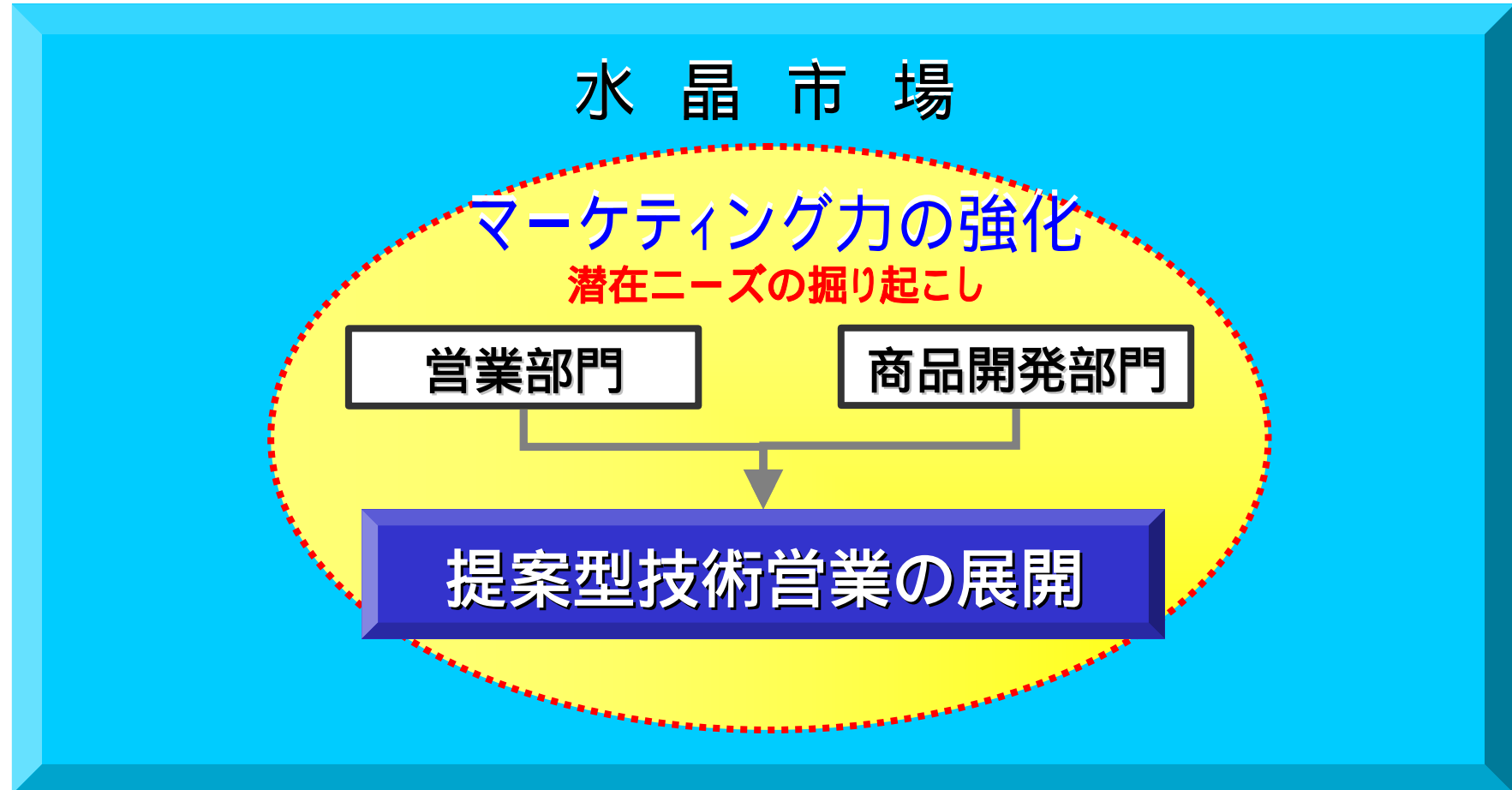
当社の小型化戦略



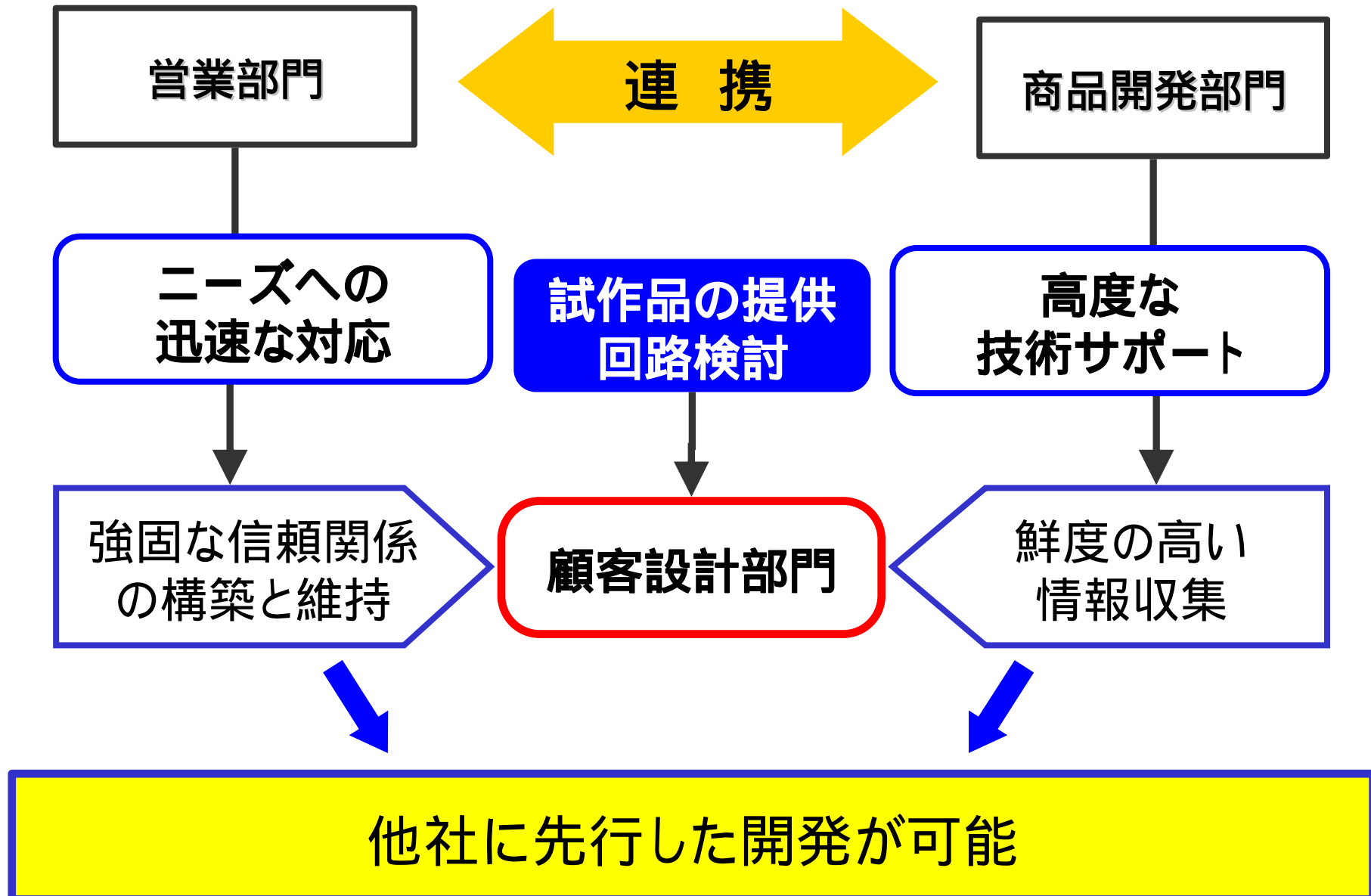
韓国、中国を中心とした  
海外シェアの拡大  
上海駐在員事務所の開設  
商社の有効活用



## 販売活動の強化



販売機会を確実に捉え、新たな市場開拓 & 収益力向上



## 中期経営計画実現に向けて

### 価値を創り込む活動の推進

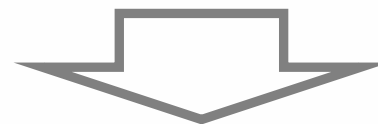
ムダをなくす(ロスタイムの低減等)

スピードの向上(製造リードタイムの短縮等)



**全従業員を対象にした取組み**

個の価値をグループの価値に共鳴させ、  
より大きな価値を創造する



**リバーブランドの強化**

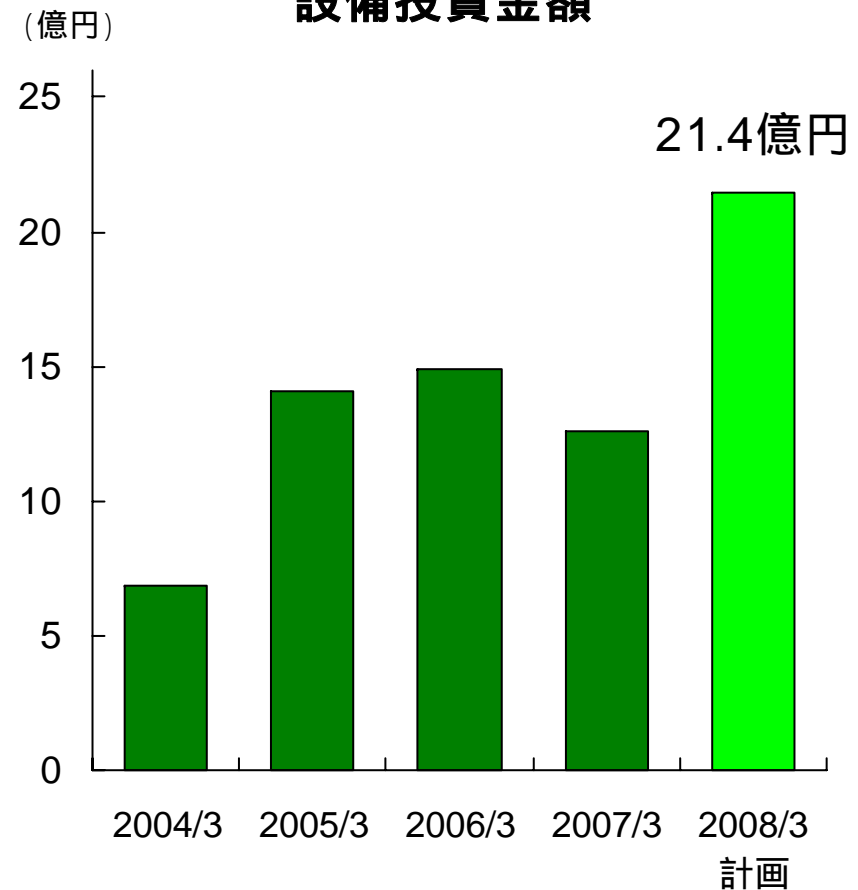
月産2100万個 2500万個体制へ

小型水晶製品の  
能力増強が急務



2007年2月に完成したクリーンルーム  
(青森リバーテクノ株式会社)

## 設備投資金額



## 2008年3月期の見通し(連結)

	2007年3月期	2008年3月期(予想)	
	通 期	中間期	通 期
売上高	92億48百万円	46億82百万円	100億19百万円
営業利益	8億62百万円	4億97百万円	10億77百万円
経常利益	8億90百万円	4億91百万円	10億71百万円
当期純利益	4億98百万円	2億96百万円	6億35百万円
1株当たり 当期純利益	66円57銭	39円54銭	84円89銭

3ヵ年中期経営計画の目標達成へ！

## 株主還元方針

長期安定的な企業価値向上によって、安定的な配当を継続的に行うことと、連結業績及び配当性向等を総合的に勘案して利益還元。

	中間期末	期末	年間	配当性向
2006年3月期		15.00円	15.00円	73.2%
2007年3月期		15.00円	15.00円	22.5%
2008年3月期 (予想)	7.50円	7.50円	15.00円	17.7%